

作成日：2019年6月13日

**学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校**  
**2019年度 学校関係者評価委員会議事録**

議事録作成者：藤田 直人

1. 開催日時 2019年6月13日（木） 13:00～15:00
2. 開催場所 東京メディカル・スポーツ専門学校 校長会議室
3. 参加者 学校関係者評価委員  
高井 豊 業界関係者（医療法人社団森山会リハビリテーション統括部長）  
牛込 公一 卒業生代表（有限会社ティーン・シー・ティーン 代表取締役）  
濱田 恵美 保護者代表  
真板 竜太郎 高校関係者（木更津総合高等学校 校長）  
沼倉 英理 近隣関係者（行船管理有限会社 副社長）  
宇梶 義男 業界関係者（ムーヴアクション株式会社 代表取締役）

学校側参加者

関口 正雄	東京メディカル・スポーツ専門学校	学校長
松川 勝吉	東京メディカル・スポーツ専門学校	事務局長
渡辺 三郎	東京メディカル・スポーツ専門学校	教務部長
舘脇 康郎	東京メディカル・スポーツ専門学校	事務部長
野崎 淳一	東京メディカル・スポーツ専門学校	柔整・鍼灸学部長
藤田 直人	東京メディカル・スポーツ専門学校	学生サービスセンター長
前川 雄大	東京メディカル・スポーツ専門学校	広報センター長
東 隆浩	東京メディカル・スポーツ専門学校	キャリアセンター長

4. 会議の概要

- (1) 学校長挨拶
- (2) 委員紹介・委嘱状交付
- (3) 平成30年度自己点検・自己評価結果報告  
及び2019年度重点目標の説明
- (4) 質疑応答

## 議事

### (1) 学校長挨拶

日頃、本校の学校教育にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。また本日はお忙しい中、学校関係者評価委員会にご参加いただきましてありがとうございます。最初に今回ご参加いただいている学校関係者評価委員会の成り立ちについて少しご説明したいと思います。以前の学校教育法では専門学校は82条の2に位置づけられて制度上専門学校は学校と認められておらず、制度上の学校と認められるようとする動きが10数年前からありました。その過程の中で、文部科学大臣が直接学科を認定する「職業実践専門課程」という制度が出来ました。この職業実践専門課程は、通常の専門学校より要件が厳しくその学科がどのような実績を残すかを見ながら、その先に一条校化を検討するような運びになっていました。ご承知のように専門職大学が出来ましたが、これは職業実践専門課程の流れとは、全く別です。その職業実践専門課程の重要な仕組みに「教育課程編成委員会」があります。認定された学科ごとに業界の方々に委員になっていただき、最終的な学習成果目標を定め、その目標に沿ったカリキュラムが編成されているか点検して改善することを目的とした委員会であります。そしてもう一つは、皆さんにご出席いただいているこの「学校関係者評価委員会」です。この委員会は、第三者評価ほどではないが、外部の方達の意見を取り入れるような構想でできたものです。昨年度、本校は義務化されている自己点検・自己評価と学校関係者評価と第三者評価の3つの評価ができたこととなります。本日は皆さんに率直な意見交換ができるように進めさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

### (2) 委員紹介・委嘱状交付

各委員の紹介と委嘱状を交付する。

(松川) トピックスですが、学校長からもご紹介ありましたように昨年度第三者評価を受けて修了証をいただきました。報告書を置かせていただきましたので、後でご覧ください。

### (3) H30年度自己評価内容と2019年度重点目標説明

・学校概要の説明 学校の設立、学科、組織目的の紹介

#### 1. 教育理念・目的・育成人材像

職業人教育を通じて社会に貢献する・・・学園のミッション

建学の理念 (実学教育・人間教育・国際教育)

4つの信頼 (学生保護者、高等学校、業界、地域)

育成人材像 学科毎に養成目的、教育目標を設定

### 特色ある教育活動への取組み

3つのクロス運営組織（スポーツ部・プロフェッショナル部・キャリア教育部）

学科横断プログラム（AT専攻・エクステンション講座・トレーナークラブ）

（松川）【1 教育理念・目的・育成人材像】については、我々としては3の評価を付けました。もしご意見などがあればお願いします。

この後、2の評価に対してご意見をお伺いしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

## 2. 学校運営

意思決定システム 方針の共有と行動の徹底をする 判断基準の明示

情報とコミュニケーションを共有する

運営会議ですべて戦略を決定する（週1回開催）

その他部署別会議、SPC会議などを実施

学園本部の機能紹介・・・PC管理、人事・給与に関すること

## 3. 教育活動

入学前や卒後も教育活動と考えている

3年5年後の姿・・・養成目的

卒業時の姿・・・教育目標

職業人教育＝専門職業教育+キャリア教育・・・人間教育を行うことを大切にしている。

（松川）【3-10-2】には評価が2を付けています。学園グループでは卒業発表などをやっている学校が多い。例えば本校では、理学療法士科が福祉と医薬で3校合同症例研究会などはやっています。昨年度も同様の課題がありましたが、時間的な問題もあり、この課題は解決していない。

この件に関して何かご意見などありますか。

（宇梶）スポーツの現場などを元に考えてはどうか。例えばウルトラマラソンの80Km地点での関わりなど普通とは違った題材になるので発表になりやすい。

（牛込）ありがちではあるが、テーピングを巻くスピードやきれいに巻けるかなどは身近にやれる評価ではないか。症例研究発表会などは、とてもまともなことをやっていると思う。続けてはどうか。

（舘脇）PT科はこの会を7年ほど前から実施しているが、卒業研究とは違ってリハビリは他職種との連携が取れるようにと思って始めた。まだ中身を深めなくては思っている。

（関口）技術の捉え方だと思う。もう少し広く解釈してはどうか。

（宇梶）研究して深めるのか、全員ができるのかなど目的を定めないといけないのではないか。

- (松川) グループの中では、美容の学校などは大会を開いて作品を競ったり、食の学校でも大会などを行っている。
- (宇梶) 会社では、硬いものに鍼を刺すことを競ったりしている。題材は何でもあるのではないか。
- (関口) 学習成果の確認ですよ。作品と言っているのはそのことで技術もここまでできるようになりましたということを見える形にして発表させる。その機会を積極的に作ることはないか。
- (松川) 今は、カリキュラム変更などで忙しい時期なので落ち着いたら考えてみようと思う。
- (牛込) スポーツ大会があると聞いているが、その中でクラス代表が何かをやったりしてもいいのではないか。
- (松川) 今年のスポーツ大会は、江戸川区の障害スポーツ係と組んでパラスポーツのレクチャーを受けるような形にした。
- (東) 江戸川区と共催する形で行う事になった。江戸川区も医療の分野に進む400人の学生に対してパラスポーツの普及ができるということもあり、今回の開催につながった。現在、打合せを行っているところです。
- (関口) 自己点検・自己評価なのだから、表現を変えてもかまわない。
- (宇梶) 会社で運動会もやっているが、障害物リレーでテーピングも入れている。

#### 4. 学習成果

卒業生 198名 就職希望者 168名 (84.8%)  
 内定者 168名 (100%)  
 専門職就職率 167名 (99.4%)  
 離職率 2名 1.1%  
 スポーツ系就職率 42.5%

##### 就職における課題・動向

接骨院・鍼灸院（柔整師・鍼灸師）自費診療への移行傾向・カリキュラム改正による「外部実習」への対応

リハビリテーション分野（理学療法士）PTの増加による自己価値の創造の必要性・カリキュラム改正への対応

スポーツ分野（全学科・AT専攻）チームおよびスポーツ系治療院・整形外科等・トレーナー人材バンクでの卒業生対応

- (松川) 次に資格取得についてですが、今年度に関しては全国平均を上回った。ただ安定した合格率ではなく、難易度に比例している状況は同じである。
- (松川) 次に中途退学についてです。7.2%と昨年度より悪くなっています。

3年ごとの周期で上下していましたが、昨年度は良くありませんでした。

中途退学における課題・分類基準 A1 (学力・目標不足)

・個人⇒クラスへの対策

今年度の対策

- ① 学部制でマネジメント強化  
⇒専門職が教育に専念できる環境
- ② アクティブラーニング継続と効果的なICT, AI等の導入  
⇒モチベーションと自学習の習慣
- ③ 個人対応からクラス対応への対策

(松川)【4 学修成果】の4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているかについては、評価2を付けています。いちど学校を離れると、なかなか情報が入ってこなくなり活躍も把握できなくなります。

真板先生、何か高校で工夫している点などありますか。

(真板) 卒業生が遊びに来たときとか、継続して就職している会社などから情報は入る。

(関口) 宇梶さんの会社などのように定期的に採用いただいている企業に3年後にはどうなっているかなど数社で調べてはどうか。

(渡辺) 就職先での卒業生の動きは、訪問しての話などでほぼわかっている。それを見える化すればいいのではないか。

(関口) キャリアセンターの仕事は、求人の開拓や就職時のマッチングだけではなく企業との窓口なのだから学生のキャリア状況をしっかりと方法論を持って把握することは大切なことである。

(宇梶) うちの人事課の者が学校ごとのデータを作成しています。見せてほしいということであれば提供できると思う。

(関口) さらに進んでその話の中で、在学中にもう少しこんな知識があればなどの情報がいただけるようになればより理想でいいと思う。

## 5. 学生支援

慶生会クリニック

滋慶トータルサポートセンター

(今年度は、校内で週2回カウンセラーが相談室を設けている)

学生寮の設置している

学費・クラブ活動・卒後支援 (技術講習会の開催6月12日)

保護者連携 保護者会の開催 (4月新入生 5月/12月最終学年)

- (松川) 【5-19-1】 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか  
独自の奨学金などは、用意できていない。もう少し学校として何かできないかという思いがある。国の政策で「高等教育の無償化」を利用できるように動いているところです。
- (関口) 学校としてその対象校に認定されれば、高等学校側としては学校を選ぶ材料になる。対象校になれば、学生に対する支援という面である程度はできているのではないかと考える。
- (松川) 昨年度、牛込委員から成績上位者の奨学金を検討してはどうかと言うご意見をいただいたが、まだできていない。先ほどの公的な支援ができてから再度考えたいと思う。在校生の保護者として濱田委員何かご意見ありますか。
- (濱田) 息子が柔整に在学していた時は、奨学金を借りていた。返還することを考えて今は借りていない。本人も学業で頑張っていてその部分を見て奨学金などがあれば励みになると思う。
- (松川) 学生サービスで何かアイデアがあれば提案してほしい。
- (関口) 厚生労働系でも社会人向けに教育訓練給付金など制度を用意し利用することもできる。
- (松川) お話のあった公的な支援も含め、学校のできる支援を考えたいと思う。
- (松川) 教育環境の【6-24-1】【6-24-2】は2を付けています。  
防災・安全についてですが、防災訓練も毎年実施しておりまた安否確認システムも学園として用意してあります。今年は、防災訓練を担当決めずに実施しました。さらに先月は、教職員全員で救急救命の訓練としてAEDの使って講習を実施しました。ただやはり本当に必要な時に対応できるかまだ不安な面があります。
- (沼倉) 職員が少ない時のためにリーダーの順番を決めておいた方がいいと思う。
- (松川) 避難訓練をやった次の日に、本当の地震がありその時はすばやい行動ができ、やはり訓練は必要だと感じた。

## 7. 学生の募集と受け入れ

- (松川) 募集の受入に関しては、特に問題ないと考えています。
- (関口) 直近の課題としては、高大接続の入試改革が上げられます。専門学校側で考えなくてはいけない課題もあり、今後検討が必要です。

## 8. 財務

- (松川) 財務関係についても問題ないと考えています。

## 9. 法令順守

(松川) 先ほどお話にでてきた「学費無償化」の申請に向けてシラバス等を整備しているところでもあります。

(関口) 第三者評価で財務関係の項目でご指摘を受けている箇所があります。専門学校の経営において単年度だけ見た場合、財務基盤ができていないと判断されてしまうことがあります。今年度は、たまたま他校で校舎などを建てる等、投資が増えたことによると思われる。財務関係には、特に問題ないと考えています。

## 10. 社会貢献

(松川) 国際交流については、フランスのエレガントスパビューターというエステの学校が昨年も2月に東洋療法を学びに来ました。ただこれ以外での活動ができていないので2の評価をつけました。

(松川) ここまでで何かご質問などありますか。

(濱田) 実際にAEDは、5台も必要ですか。

(松川) いつどこで何があるかわからないので、用意しています。実際に4年前に柔道場で心肺停止の学生がおり、AEDを使ったことがありました。また外部活動も多いので持ち出して使用することもあります。

## 2018年度の重点目標と結果

### 【数値目標】

1. 中途退学者 27名 (3.9%)  
結果 ⇒ 49名 (7.2%) 未達成
2. 入学者数 230名  
結果 ⇒ 225名 未達成
3. 進級率90.1%  
結果 ⇒ 85.2% 未達成

### 【重点目標】

1. 入学定員を確保する・・・△  
最終入学者数 225名 (定員230名)
2. 新教育システムを定着する・・・△  
アクティブラーニング等のシステムを導入中
3. 産学連携を確立する・・・○  
ホームページで「企業コラボレーション」を展開中

## 2019年度重点目標

### 【重点目標】

1. 国家試験対策を強化する
2. 産学連携で学生の現場力を向上する
3. 教育のマネジメント体制を確立する
- 4.モチベーションの高い入学生を継続的に確保する

### 【数値目標】

1. 中途退学者 37名 (5.5%)
2. 入学者数 230名
3. 進級率 88.5%

### 運営方針 (渡辺)

「教育力のTMS」を作り上げる

「教育力のTMS」とは？

- ・中途退学 0名 ・国家試験合格 100%
- をどうすれば達成できるか常に意識

### 【2つの実行ポイント】

1. ICT、AI等を効果的に取り入れる
  - ・moodle (ムードル) を活用した学習環境整備
2. 「月間テーマ」を定めた学生フォロー体制

数字目標に向かって、スモールステップとしてテーマを明確化。具体策は学科会で決める方法

  - ・テーマは、毎月の全体会 (第4週目火曜) に教務部長が説明。なお、実践しながら修正していく方法。
  - ・全体会も、同じ目的に向かってテーマを決めている。

(渡辺) ここまでで何かご質問はありますか。

(牛込) ICT、AI、moodle というのは、どのようなシステムですか。

(舘脇) moodle は、web で学習する環境を作ってクラウド上で事前に授業の資料を見るなどの事前学習もでき、いつでもどこでも授業を受けられる状態にすることです。今後、教科書などもここに入れて見る事ができる。大学などは、これが主流になりつつあります。

(関口) 教育力を上げるには教員の力量を上げることが大切だと思う。講師の力量を測る仕組みを確立し、今年より来年が上がっている指標がわかるようにしなくてはならない。



- (牛込) 教わる側からすれば、教員のモチベーションはすぐに伝わる。眠くならない授業など工夫している教員の授業は興味も湧くし、楽しい。
- (舘脇) そのような人材探しは、やはり苦労している。有名な先生よりわかり易い先生がいいと言う声は上がっている。そんな中の一つとして、インフォメーション&コミュニケーション・テクノロジー（ICT）を使って人とのコミュニケーションを取れる先生が大事だと思っている。双方向の授業ができる先生がいい。
- (関口) 人の授業技術に関心を持って良い所を取り入れようとすることは重要です。毎年同じ事をやっていると、だめだと思う。
- (牛込) 通常の授業のほかにその科目をフォローする授業があってもいいのではないか。フォローする先生は、資格関係なく授業技術に優れた方にすればいいと思う。
- (渡辺) ご意見ありがとうございました。
- (松川) そろそろお時間もありますので、委員会を終わらせていただきたいと思います。本日は貴重なご意見ありがとうございました。